



れんけいと支援



富山市今泉北部町2-1 / Tel: 076 (422) 1112 (代) <http://www.tch.toyama.toyama.jp> / 発行日 2012年10月

地域の医療・保健・介護・福祉の方とともに、皆様の健康をお守りします



生理機能検査の新たな取り組み

臨床検査科部長 早川 哲雄

脂質異常症は動脈硬化をひきおこしますが、それだけでは自覚症状がなく、冠動脈疾患、脳血管疾患を発症して初めて症状が出現します。動脈硬化のスクリーニングとして血管の硬さを評価するPWV、閉塞性動脈硬化症を評価するABI、精密検査として頸動脈血管壁の肥厚・プラークの有無を観察する頸動脈エコーを行ってきました。そして9月から新たに下肢動脈エコーを開始し、下肢動脈の血管壁肥厚・プラークの有無を観察し閉塞性動脈硬化症の精密検査を行っています。

下肢静脈エコーも胸部血管外科に代わって行っています。下肢静脈エコーで血栓の有無を観察し深部静脈血栓症を診断します。肺塞栓症の予防に有用で手術前の患者さんに行っています。

糖尿病患者の47%に神経障害を合併するとされますが、その40%は自覚症状を認めません。神経障害の検査として神経伝導速度、CVR-R検査を行っており、これまで神経伝導速度は上肢の正中神経と尺骨神経の運動神経を検査してきました。糖尿病性神経障害は上肢より下肢が、運動神経より感覚神経が障害をうけやすいため、9月から下肢と感覚神経も検査する神経伝導速度(DMセット)を新設しました。DMセットでは下肢は脛骨神経の運動神経、腓腹神経の感覚神経を、上肢は正中神経の運動神経・感覚神経を検査します。正常値は下肢の脛骨神経、腓腹神経が40m/s以上、正中神経の運動神経・感覚神経がそれぞれ50m/s以上・45m/s以上です。

下肢動脈エコー・下肢静脈エコーは胸部血管外科、神経伝導速度(DMセット)は内科にご紹介ください。今後は動脈硬化を初期段階から評価できる血管内皮機能検査を導入していきたいと思っています。また、PWV検査は血圧の影響をうけますのでCAVIも導入する予定です。生理機能検査をますます充実し先生方の診療のお役にたてるようにしていきたいと思っていますのでよろしくお願ひいたします。

Contents

生理機能検査の新たな取り組み	1
研修・講演・勉強会のご案内	2,3
10月の地域連携・開放型病床症例検討会報告	3
診療所・病院・施設訪問	4
富山市・医師会急患センターの併設の効果	5
心臓病教室のご案内	6
NST学習会報告	6
接遇力向上講演会	7
異動のお知らせ	7
医師不在のお知らせ	7
外来部門の紹介	8
編集後記	8

1. 地域連携・開放型病床症例検討会

日時：11月13日(火) 19:00~20:15 場所：当院3階 講堂

ミニレクチャー：「扁摘とステロイドパルス療法を併用したIgA腎症」

耳鼻咽喉科 加勢 満

富山市民病院耳鼻科で扁摘と、引き続き小児科(内科)入院、ステロイドパルス療法を行った8例の、IgA腎症を検討しました。平成20年12月からで、いまだ、8例で術後経過が短い症例もありましたが、血尿、蛋白尿や血清IgA値は確実に低下しました。

扁摘とステロイドパルス療法の併用は、効果が期待できるものでありました。

症例検討

1)『当院で経験したバレット食道がん』 消化器内科 蓑内 慶次

2)『過去4年間に3回の右急性腎盂腎炎を繰り返した1例 - 単孔式後腹膜鏡下の診断と治療 - 』
(紹介医)大沢野中央診療所 中山 哲規 先生 泌尿器科 児玉 浩一

予告

日時：12月11日(火) 19:00~20:15 場所：当院3階 講堂

(1)ミニレクチャー：「危険な頭痛を見逃さない」 神経内科 林 茂

(2)症例検討 呼吸器内科・整形外科の2例を予定しています。

平成25年2月の地域連携・開放型病床症例検討会中止のお知らせ

病院機能評価受審のため2月12日の開催は中止いたします。

なお3月の開催は、3月12日(火)に予定しておりますのでよろしくお願いいたします。

多数のご参加お待ちしております。

2. 内科CPC

日時：11月13日(火) 17:30~

場所：医局カンファレンス室

3. 糖尿病研究会定例学習会

日時：11月1日(木) 17:30~

場所：集団指導室

テーマ「糖尿病の眼病変」

講師 眼科医師 山田 芳博

4. 地域医療部 講演会

日時：11月2日(金) 17:30~19:00

場所：講堂

テーマ「高齢者ケアと人工的水分・栄養補給法について考える」

講師 東京大学大学院人文社会系研究科
死生学・応用倫理センター
上廣講座 特任准教授
会田 薫子先生

5. 医療機器研修会

日時：11月6日(火) 17:45~18:15

場所：集団指導室

テーマ「A-C PAPって何？」

講師 臨床工学技士 高谷 和幸

6. 透析看護認定看護師

公開講座

日時：11月7日(水) 17:45~19:00

場所：集団指導室

テーマ「透析室における感染対策」

講師 透析看護認定看護師 松木 理浩

7. 睦美会 講演会

日時：11月8日(木) 17:30~19:00

場所：講堂

テーマ「どこで最期を迎えるのか、選べる時代に
- チームナラティブの取り組み - 」

講師 ものがたり診療所
医師 佐藤 伸彦先生

8. 褥瘡セミナー

(褥瘡対策学習会)

日時：11月9日(金) 17:45~

場所：集団指導室

テーマ「脆弱な皮膚へのスキンケア」

講師 スミスアンドネフュー
ウンドマネージメント株式会社
森重 剛大先生

9 . 感染予防対策学習会



日時：11月12日(月) 17:45～19:00

場所：講堂

テーマ 「抗菌薬の適正使用と耐性菌について」

講師 金沢医科大学附属病院 感染症科
教授 飯沼 由嗣先生

10 . 緩和医療委員会 学習会



日時：11月13日(火) 17:30～18:30

場所：集団指導室

テーマ 「症状マネジメント(精神症状)」

講師 精神科医師 長谷川 雄介

なお当日はがん看護事例検討会が18:30～2階
地域医療研修センターでおこなわれます。お気軽
にご参加ください。

11 . 接遇力向上委員会



接遇講演会

日時：11月20日(火) 17:30～19:00

場所：講堂

テーマ 「アンガーマネジメント」

講師 一般社団法人日本アンガーマネジメ
ント協会代表理事

安藤 俊介先生

12 . 乳腺術後症例検討会



日時：11月20日(火) 16:00～

場所：病理検査室

対象：医師、臨床検査技師、放射線技師、他

* 毎月、2～3症例の手術症例検討をおこなって、エ
コー・細胞診・病理組織・マンモグラフィーなど
より深く検討していく方針です。

* 日時が変更になる場合がありますので、参加希望
の方は事前にご連絡ください。

13 . NST学習会



日時：11月26日(月) 18:00～19:00

場所：講堂

テーマ 「胃瘻造設・管理について」

講師 内視鏡内科医師 蓑内 慶次

14 . 看護研修



《衛星研修S - QUE Eナース》

日時：11月7日(水) 17:40～18:50

場所：講堂

テーマ 「実践 がん化学療法の基礎 **基礎**」

日時：11月21日(水) 17:40～18:50

場所：講堂

テーマ 「緩和ケアチームが教えるがん性
疼痛緩和技術 **応用**」

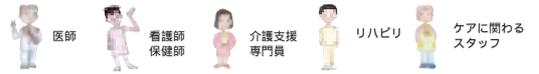
《衛星研修S - QUE 特別企画》

日時：11月30日(金) 17:00～19:00

場所：講堂

テーマ 病院環境フォーラム '12大阪
「次世代病院管理を考える
～地域連携から地域包括ケア」

研修の横に対象となる職種マークをつけました。お気軽にお越し下さい。



《連載企画》 診療所・病院・施設訪問 91 **かんすいこうえんレディースクリニック**

今回は「かんすいこうえんレディースクリニック」を訪問させていただきました。

名 称	かんすいこうえんレディースクリニック
住 所	富山県富山市下新町18番3号
管理者(医師)	院長 金枝 貴史 / 副院長 金枝 麻美子
標 榜 科	産科・婦人科
診察日・時間	月～土曜 午前 9:00～12:00 月・火・水・土曜日 午後 3:00～6:00 木曜、日曜、祝祭日 休診
施設区分	有床診療所

訪問記



かんすいこうえんレディースクリニック前景



金枝貴史先生・麻美子先生とスタッフの皆さん



金枝貴史先生と金枝麻美子先生

秋晴れのさわやかな10月16日火曜日に、環水公園のすぐそばで昨年11月から開業されている「かんすいこうえんレディースクリニック」へ訪問させていただきました。主要道路からは少し離れた住宅街の中に静かに建っているクリニックは、まるで都会の洗練されたホテルのようなたたずまいをしており周囲の木々の緑と美しく調和しています。広い駐車場を完備しクリニックの中へとすすむそのアプローチにも水の音の癒しがありました。クリニックは、子供を連れて受診するママのことを基本に考え、ベビーカーを押していてもそのまま診察室やトイレに入ることも出来るように設計したとのことでした。

院長の金枝 貴史先生と副院長の麻美子先生はご夫婦で診療にあたっておられ、出産・子育ての経験から、安心して受診・お産ができるように環境を整えたとお話し下さいました。お話を伺ったマザーホールはマタニティヨガやベビーマッサージ、1か月健診など多目的に利用でき、イベントを通じてお母さん同士の交流の場を提供することに役立っているそうです。クリニックのスタッフの方は先生方を含め看護師さん13人、事務の方4人を合わせて19人とのことでした。待合室の調度にもこだわり、安全で空気を汚さない冷暖房器具やキッズルームなど診察に来られる方に快適な環境を目指し、女性の一生を支えることのできるクリニックを目指していきたくないと伺いました。

淡いピンクのKをデザインしたロゴマーク

がとても可愛く、クリニック全体を演出していました。

「開業をして一番強く思うのは緊急なことに対する受け入れについて急性期病院の後ろ盾が何よりもありがたく、富山市の確立された輪番制度のお陰で安心して診療ができます。」「2人での診療でよかったことは、診療について意見を聞くことが出来ることや緊急な手術に対して助けあえることですね。」と医師2人体制のクリニックの安心感を、話しぶりや先生方の優しい笑顔から感じ、ぜひこのクリニックで治療や出産したいと多くの方が訪れる理由を見つけることができました。



富山市・医師会急患センターの併設の効果

臨床検査科長 松下 敏昭

富山市・医師会急患センターが富山市民病院に併設稼動してから、ちょうど一年が経過しました。この間の検体検査の受託総件数は1,370件です。その内訳として、血算が487件、CRPは476件、生化学は406件(3,774項目)、血液ガス分析1件です。

救急医療は、初期救急と急性期救急医療の二次及び三次救急に機能が分担されています。このたびの富山市・医師会急患センターの併設により、救急医療の機能分化の棲み分けから、急性期救急医療の二次救急を担う当院として本来の病院機能が発揮できていると感じています。

急患センターの検体検査受託業務は、血算(赤血球数、白血球数、ヘモグロビン量、ヘマトクリット値、血小板数)、生化学検査(AST, ALT, -GTP, Cr, UA, Glu, AMY, CK, Na, K, Cl, LDH, ALP, TP, BUN, T-Bil, Ca, IP)、免疫学検査(CRP)、動脈血液ガス分析を行います。そして、利用される先生方の便宜を考え、血算および免疫検査と生化学検査の一部の項目をセット化し、簡便性も考慮しました。また、当院の検査結果は、精度保証の観点から毎日の内部精度管理と毎年3回の外部精度管理に基づき報告しています。

急患センターの検体は、採血後、検体搬送(気送管)システムを用い、急患センターから約1分10秒で検査部に到着し、血算、血液ガス分析で10分程度、免疫・生化学項目は30分~40分で測定し、結果報告書が急患センターのプリンターから出力されるシステムです。

機能別検査項目については、

貧血では、血算(赤血球数、白血球数、ヘモグロビン量、ヘマトクリット値、血小板数)など

心筋梗塞では、血算, AST, LDH, CK, CRPなど

腎機能では、血算, Cr, BUN, Na, K, Cl, UAなど

肝機能では、血算, AST, ALT, LDH, ALP, -GTP, T-Bilなど

腹痛では、血算, CRP, AST, ALT, AMY, T-Bilなど

脱水では、血算, Cr, BUN, Glu, Na, K, Cl, TP, UAなど

炎症では、血算, CRPなど

また血液ガス分析は、肺疾患などによる呼吸不全や一酸化炭素中毒などの診断に用います。

今後も医師会急患センターとの連携を密に図り、ご要望や改善点などご意見を聞きながら地域の救急医療における検体検査の対応に務めて参りたいと考えております。



検体搬送装置(気送管)



生化学自動分析装置(AU680)

心臓病教室のご案内

狭心症や心筋梗塞などの虚血性心疾患の原因は動脈硬化です。冠動脈硬化は、老化も一つの要因ですが、生活習慣に原因があることが多いのです。心疾患は死因の3位であり県内でも年間約1500人が心疾患で亡くなっています。当院では平成18年に心臓リハビリテーションチームを立ち上げ1年前より毎月心臓病教室を開催しています。心臓病に興味のある方はどなたでも参加できます。是非、正しい知識を得て療養にお役立て下さい。



心臓病教室

開催日：月・水・金曜日（変則ですので開催の有無をお問い合わせください）

担当者：医師 薬剤師 臨床検査技師 理学療法士 管理栄養士 看護師

開催場所：西病棟8階 心臓リハビリテーション カンファレンス室

開催時間：午前11時30分～12時

心臓病教室の利用を希望される方がおられましたら、内科外来・西病棟5階・西病棟8階心臓リハビリテーション室までお問い合わせください 尚、参加費は無料です。



心臓リハビリテーションとは！？

運動による治療（運動療法）を中心に栄養指導、薬物管理を含めた教育的指導、更には心臓病にかかったことでもたらされる抑鬱や不安に対するサポートを実施する一連のアプローチのことを言います。

NST 学習会報告

言語聴覚士 浅井 慈子

9月24日3階講堂においてNST学習会を開催しました。今回は「摂食嚥下リハビリテーション」というテーマで嚥下スクリーニング評価、専門的嚥下評価（嚥下内視鏡検査、嚥下造影検査）、訓練方法（間接的嚥下訓練、直接的嚥下訓練）に関して具体的に説明させていただきました。このテーマでは毎回院外から多くの方に参加いただいておりますので、当院で行っているスクリーニング評価、訓練に関して施設や在宅でも実践可能な方法を中心にお話ししました。今回の学習会が少しでも参加者の方々のスキルアップにつながれば幸いです。



「食事」は欠かす事の出来ない生活行為の一つです。また「口から食べる」と

いうことは生活の中の「楽しみ」の一つでもあります。嚥下障害があっても、正しい嚥下評価やその方に合った食形態の提供・食事介助を行うことで「口から食べる」ことが可能となることが多いです。

安全で楽しい食事を維持することは患者さんのQOLを高めることにつながると考えています。そのためには医療や介護のスタッフ、ご家族の嚥下障害への知識や技術が向上することが大切だと思います。学習会などを通して、地域の皆様と共に嚥下障害に対する知識や技術の向上に努めていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。



睦美会・接遇向上委員会共催 接遇力向上講演会

9月28日（金）に今年度の第2回接遇力向上講演会が開催されました。講師は株式会社ヴィジョナリー・ジャパン代表取締役の鎌田洋先生で「企業価値を高めるCS向上のヒント」



～ありがとうの数だけ幸せになれる～について講演していただきました。参加者は院内から141名、院外から20名でした。

CS（顧客満足）向上成功の6つの要素について成功企業の具体例を提示され話しされ、CS向上の鍵は、組織のミッション（使命）をすべてのスタッフにまで理解させる ミッションが浸透するシステム（開発・教育）を考える ミッションをより具体化（行動）するように努力する 自分たちのサービスや組織に誇りが持てる 顧客ニーズ再検証 個々人（スタッフ）が主体性を発揮する組織文化（職場風土）であることがわかりました。そして「良い組織文化の中にCS向上の花が咲く」「良い組織文化が個人の主体性を育てる」ことが大切であると実感しました。



異動の お知らせ

10月より 精神科、外科、整形外科医師が着任いたしましたのでお知らせいたします。

なお、外科 森 和也医師、整形外科 大島 健史医師は9月末で異動になりました。



しばた まゆこ
精神科 柴田 真由子 医師

地域の皆様の健康のために微力を尽くしてがんばりますのでよろしくお願ひいたします。



さいとう ひろと
外科 齋藤 裕人 医師

患者さんの立場に立って医療をおこなっていかうと思っています。一生懸命頑張りますのでよろしくお願ひいたします。



はつち ゆう
整形外科 羽土 優 医師

10月より整形外科に着任いたしました。地域医療に貢献できるように、尽力させていただきます。

医師不在のお知らせ

外来担当日の休診のみ掲載

11月分

科名	不在日	医師名	科名	不在日	医師名
内科	7日・16日	林	整形外科・関節再建外科	9日・30日	澤口
	29日・30日	石浦		21日	重本
	12日	寺崎靖	小児科	5日・7日・8日	橋本
	22日	打越	形成外科	1日・2日・13日・14日・15日	置塩
	26日・27日	清水	外科	8日・12日	泉
	7日	山本		21日・22日・29日	廣澤
	13日・27日	森永		8日・9日・29日・30日	福島
	19日より産休のため、しばらく休ませていただきます。	高櫻		30日	月岡
精神科	30日	長谷川		22日	野島
呼吸器・血管外科	7日・8日	草島			

その他、急に不在となることがありますので、ふれあい地域医療センターまでお問い合わせください。

外来部門

の紹介



今月は 脳神経外科

脳神経外科外来は、脳血管障害、脳腫瘍、外傷、脊椎・脊髄疾患、小児脳神経外科疾患などを、脳神経外科専門医4名と看護師1名、医療事務1名であたたかい医療を提供できるよう、日々心がけています。退院後やりハピリテーション病院からの継続治療目的で通院される患者さんが主ですが、成人だけでなく、小児の先天性脳神経・脊髄疾患に対しても、小児科や専門科と連携を取りながら治療を行っています。また、めまい・手足のしびれなどでお悩みの方に専門的な治療を提供し、脳卒中予防のために脳ドッグも行っています。脳ドッグは健康管理科が窓口になっていますが、なかなか予約が取れない状況です。すこしでも症状がある方は、脳外科の受診をお勧めします。

また、通院中の患者さんの協力で四季の色とりどりの花を皆さんに提供させてもらっています。お花を持ってきて下さる方は、「皆さんに喜んでもらえれば何より・・・」と鉢植えごと持ってきて下さいます。血圧測定をしながら花を眺めて心が癒され、会話が広がります。感謝、感謝です。

来院された患者さんに笑顔で安心してお帰りいただくことがスタッフの願いです。これからも、患者さんとのコミュニケーションを大事に、心の通った看護が提供できるよう努力していきたいと思っています。



いつも花をいただく患者さん

編集後記



病院ボランティア
篠崎 佳子

「お大事に」という言葉は、医療関係者が患者さんとお別れする時によく使うあいさつの言葉です。英語ではどのように言うのが調べてみると、「Please take care of yourself」でしたが、これはとても丁寧な対応で、普通は「See you」「Bye」などが一般的だそうです。

日本の「お大事に」の言葉には、病気で心身弱くなった相手の身体を思いやり応援する気持ちと、自分の身体を大切に守って元気でいてくださいねというメッセージが込められている素敵な言葉だと思います。いつも離れていても、「お大事に」という言葉で気持ちは繋がっていたいものですね。

これから、冬に向かって寒くなってまいります。皆さまもお身体を『お大事に』なさってお過ごしてください。

がん・なんでも相談室 島田 真理子



「れんけいと支援」に関するお問い合わせは、ふれあい地域医療センターまでご連絡ください。送付を希望されない方はお申し出ください。

TEL 076 (422) 1114 FAX 076 (422) 1154

ホームページ <http://www.tch.toyama.toyama.jp/>
がん・なんでも相談室：メールアドレス shien@tch.toyama.toyama.jp